

道徳学習指導案

日 時 平成21年6月5日（金） 第1校時
対 象 1年2組（男子20名・女子20名）計40名
指導者 教 諭 濱 田 和 美

1 主題名 「思いやり」

2 主題設定の理由

他者とのかかわりの中で、温かい人間愛の精神を深め、これを身に付けることは人間としてきわめて大切なことである。人間愛の精神は、互いの存在を肯定的に受け止めようとする思いが普遍化されたものである。それは、人間を尊重する精神や生命に対する畏敬の念に基づく人間理解を基盤として、他者に対する思いやりの心を通して表現される。思いやりの心は自分が他と積極的にかかわろうとするときに必要な心の在り方である。すなわち、他者の立場を尊重しながら、親切にし、いたわり、励ます生き方として現れる。また、他者の思いやりにふれ、それを素直に受け止めたとき、人は自ずと感謝の念を抱くようになる。そして、自分が現在あるのは、多くの人によって支えられてきたからであることを自覚するようになる。

中学生の時期には、他者とのかかわりをもつことの大切さを理解できるようになってくる。しかし地域等のふれあいの減少やコミュニケーションツールの発展などにより、人間的なかかわりが少なくなっていることから、他者への配慮を欠く言動をとる者が見られたり、友人関係においても、自らの感情が先に立ち、友達の立場を考慮することができない者が見られたりする。また、だれもが心の中に他者を思いやる心があるものの、それを素直に表現できない時期である。

本学級の生徒は、素直で明るく何事にも積極的に取り組もうとする姿勢がみられる。しかし、生徒の中には入学してから新しい環境になかなか慣れることができず、相手の立場を考えて行動する余裕がない者もいる。また、周囲への思いやりの心はあるものの、恥ずかしさが先にでてしまい、他と積極的にかかわることができずよりよい人間関係を築くために時間がかかる現状がある。

そこで、資料の中の主人公と自分を重ね合わせさせることで、相手の心を思いやり行動することの大切さについて考えさせたい。また、自分自身の行動を判断させることで自らの中にある思いやりの心を行動にうつすために大切なことについて考えさせたい。さらに、人は互いに支え合って生きており、思いやりの心をもって人と接しようとする心情を育むことで、あたたかい社会の実現につながることに気付かせたい。このような考えに立ち、本主題を設定した。

指導にあたっては、日常生活の一場面をとりあげることで、生徒自身が人とのコミュニケーションを図る中で生じる自分の気持ちや思いと向き合わせ、深く自分自身で考え（自己内対話）させたい。さらに、グループや学級全体で本音で意見や考えを討論させ、生徒から多様な価値観を引き出すことで、道徳的实践力を養いたい。

3 学習指導要領との関連

本主題は学習指導要領の次の内容項目と関連が深い。

内容 2 主として他の人とのかかわりに関すること

(2) 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。

4 本校教育目標との関連

本主題は本校教育目標の次の「めざす生徒像」と特に関連が深い。

- ・ゆたかな心をはぐくむ生徒
- ・自分のよさを発揮する生徒

5 目標

人は互いに支え合って生きていることに気付き、思いやりの心をもって人と接しようとする心情を育む。

6 生徒の実態

【アンケート結果】 実施日 平成21年4月28日（火）

対 象 鹿大附属中学校 1年2組 男子20名・女子19名 計39名

入学してから2か月がたち、様々な行事を通して日々、他者とかかわり人間関係を形成しつつある。アンケートでは、(1)の問いに多くの生徒が「ある」と答えている。内容は「困っているときに助けてくれた」や「手伝いをしてくれたとき」、「バスの中で中学生が席をゆずっている姿を見たとき」など、学校生活における場面が多かった。(図1)

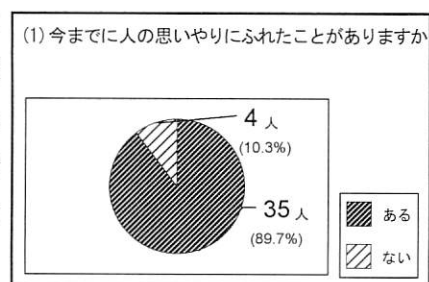


図 1

また、(2)の問いにも34名の生徒が「ある」と答えている。しかし、席をゆずったことのない理由として「はずかしかった」や「声がかげづらかった」など思いを行動に表すことのできなかったことを挙げている者もいる。(図2)

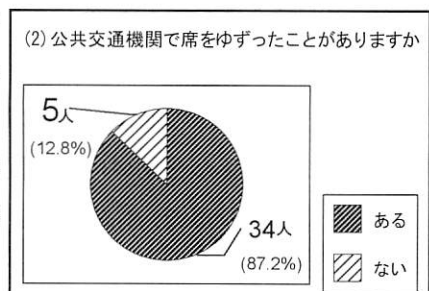


図 2

(3)の質問では9名の生徒が思いを行動にうつせなかったと答えている。その後の気持ちは「すっきりしなかった」や「しておけばよかった」などであった。(図3)

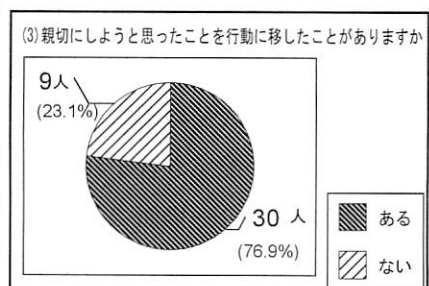


図 3

これらのアンケート結果から、多くの生徒は思いやりの気持ちがあり、その大切さも理解していることがわかる。しかし、その場の雰囲気や状況に流され、その思いが行動にうつせない生徒もいる。

そこで、本主題を通して誰の心の中にもある思いやりの心について考え、相手の立場を考えた行動をとり互いに支え合って生活することで信頼関係の深まりにつながることに気付かせ、自分の生活に生かそうとする意欲や態度を育てたい。

7 指導計画（全2時間）

月	資料名	時間	ね ら い
6	おばあちゃんの指定席	1	人は互いに支え合って生きていることに気付き、思いやりの心をもって人と接しようとする心情を育む。
7	旗	1	相手の立場や気持ちを考え、あたたかい思いやりの心で接する態度を育成する。

8 本時の実際

(1) 本時の目標

資料「おばあちゃんの指定席」を読み、人の支え合う姿に触れ、自ら思いやりをもった態度を心がけていこうという気持ちをはぐくみ、他から受けた厚意に対し、素直に感謝する気持ちの大切さに気付かせる。

(2) 資料について 「おばあちゃんの指定席」(「自分を考える」廣済堂あかつき中学生の道徳)

ア 資料観

本資料「おばあちゃんの指定席」は、主人公「ゆう子」のさりげない言動に、あふれるような思いやりの心を感じ取ることでできる資料である。

おけいこごとに通うために毎週同じ電車に乗っているゆう子はある日、満員電車の中、手すりをしっかりつかんで立っているおばあさんを見つけた。ゆう子がおばあさんに席をゆずるとおばあさんはうれしそうにお礼を述べてくれ、ゆう子もとてもうれしくなった。次の週に同じ電車に乗っていると同じ駅からあのおばあさんが乗ってきた。ゆう子は迷うことなく席をゆずり、おばあさんと「また同じ電車に乗ってね。席をとっておくから。おばあちゃんの指定席だからね。」と約束した。

ある日、ゆう子がおばあさんの乗車を心待ちにしながら座席に座っていると、ゆう子の座席の横にけがをした男の人が乗ってきた。とても大変そうな様子を見たゆう子は、おばあさんとの約束が頭をよぎったが席をゆずることにした。ゆう子はホッとした男の人の顔を見ながら「これでいいんだ」と自分に言い聞かせたがドキドキして、おばあさんの乗車を待っていた。うれしそうなおばあさんの顔が頭から離れず、悪いことをしたような気持ちにさえなっていた。

おばあさんを見つけた瞬間、急にゆう子の目から涙があふれてきた。そしてゆう子はおばあさんに小さな声で、「ごめんなさい、今日は席がないの」と伝えた。それを聞いたおばあさんは笑顔で大きくうなずいてくれた。

本資料は、主人公のゆう子が目の前で困っている人に席をゆずるか、約束をしたおばあさんに席をゆずるか迷う場面がある。どちらも他者へ配慮した行動であり、行動を決定するときのゆう子の心の迷いがあり、生徒も共感しやすい。また、ゆう子がおばあさんに席がないことを伝える場面は主人公のあふれるばかりの優しさが伝わってくる。そこには、おばあさんだけでなく、男の人への配慮も含まれており、誰に対しても思いやりの心があることに生徒は気付くだろう。実際の生活の一場面であることから自分と重ね合わせやすく、授業を通して考えたことや感じたことを道徳的実践力として生活に生かしやすくと考えた。

指導にあたっては、資料前半のゆう子が行動を起こすまでに考える様々な思いに気付かせたい。資料後半部分では、男の人へ配慮し、席がないことをおばあさんに小さな声で伝えることに気付かせ、ゆう子のさりげない言動に、あふれるような思いやりの心を感じ取らせたい。主人公やおばあさん、席をゆずられた男の人のそれぞれの言動から、思いやりの心と感謝の心にふれさせ、他者とのかわりの大切さを感じ取らせるとともに、互いを思いやる意欲をもち、あたたかい社会をつくりあげていこうとする心情を育てていきたい。

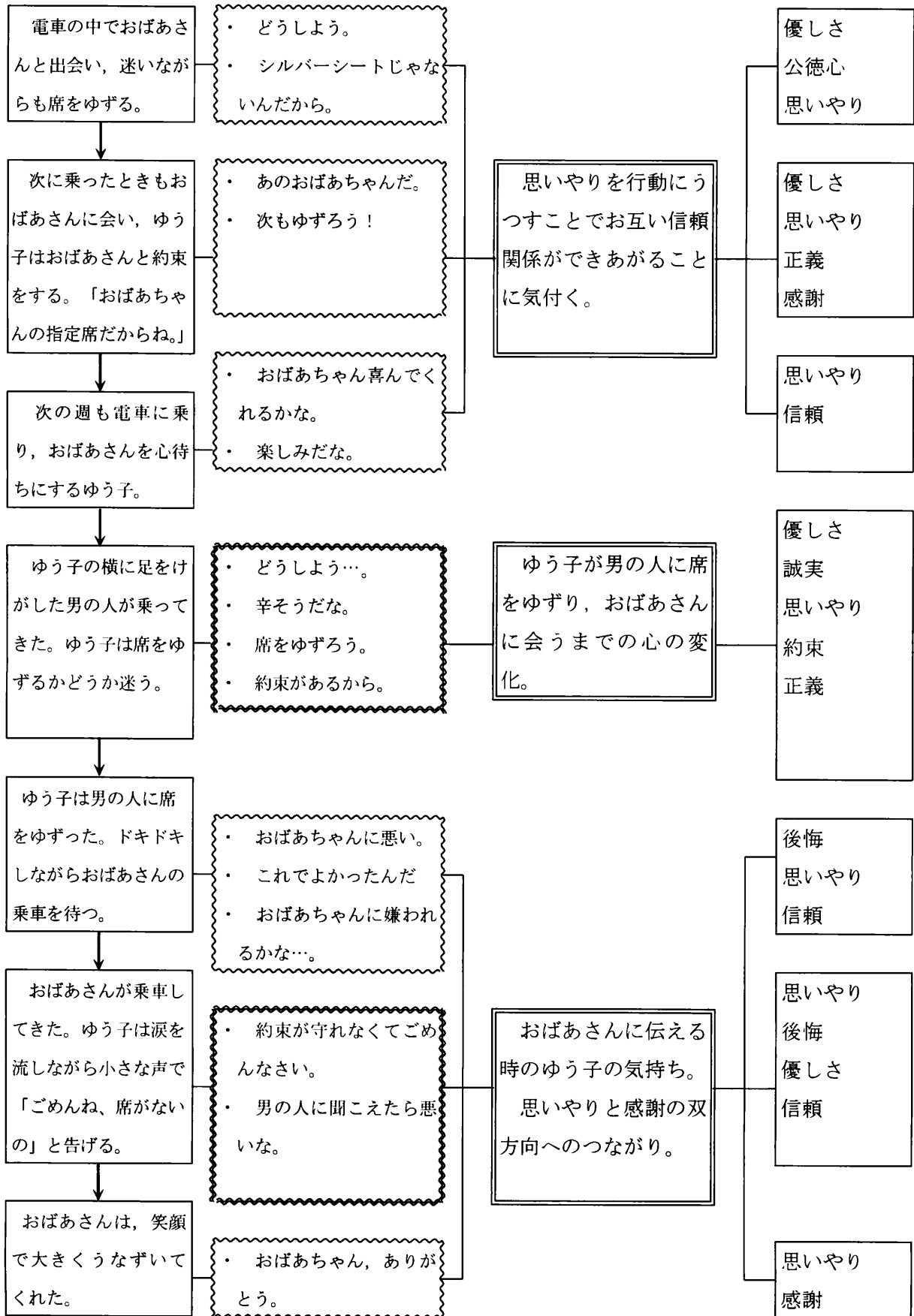
イ 資料の分析

〈あらすじ〉









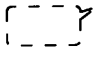
〈心の動き〉

〈問題にしたいこと〉

〈道徳的な価値との関連〉



価値関連図

 心情曲線	 言動	 道徳的価値	 障害・壁	 価値に対する理由
 心の葛藤	 対する考え方	 補足	 考え方に対する理由	

・つらそうだな。
 ・おばあちゃんが待ってるかも。
 ・約束を守らなければ。

・おばあちゃんに正直に伝えよう。
 ・男の人に聞こえないように。

おばあさんの笑顔を見る

ゆう子さんの心情の変化

おばあさんとの出会い

- 正義
- 思いやり
- 役割と責任

席をゆずる

- 不安
- 自分勝手

・シルバーシートじゃない

おばあさんとの約束

思いやり

・おばあさんが喜んでくれてよかった

男の人に気付く

男の人へ席をゆずる

- 優しさ
- 誠実
- 思いやり
- 正義

おばあさんのために席をとっておく

男の人へ席をゆずる

男の人のホッとした表情

- 思いやり
- 公平・公正
- 誠実
- 正義

「おばあさんに伝える」「めんね、席がないの」

男の人の乗車

- 逃避
- 後悔
- 自分勝手
- 不安
- 自己中心
- 無関心
- 不安
- 約束
- 席は一つしかない
- おばあさんとの約束が守れない

・おばあさんは許してくれるかな

・気付かないふりしよう
 ・約束をしなければよかった
 ・他の人が気付けばいいのに
 ・もう、どうでもいい
 ・おばあさんが怒るかも

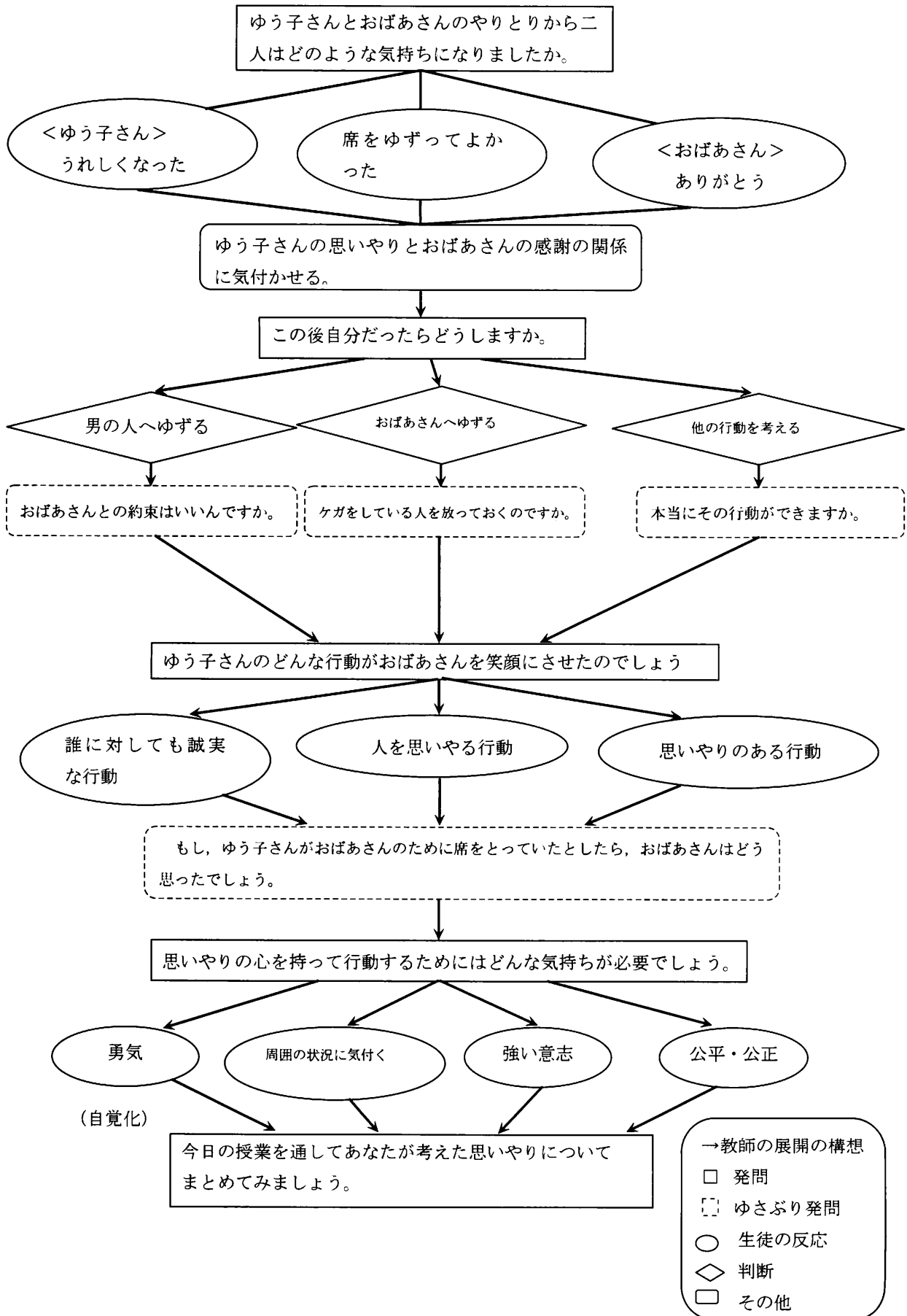
おばあさんとの約束

男の人の乗車

おばあさんの乗車

〈発問による授業の構造化〉

〈価値の追求・把握〉



(3) 指導過程

○ ワークシートに記入しない発問

◻ ワークシートに記入させ、じっくり考えさせる発問

○ 描きぶり発問

◻ 研究の内容

過程	発問・指示	時間	生徒の予想反応	教師のはたらきかけと留意点	研究との関連	
意識化	1 資料のように席をゆずろうとしてゆずれなかったことはありますか。 ○ 学習課題の提示 おもいよりの心をもって行動するためにはどのような気持が必要だろう	3	・ 同じような経験がある。	研究の内容2-(1)ア ○ 生徒の生活体験に似た事例を活用することにより身近な体験としてとらえさせ、課題意識を高めさせる。	研究の内容2-(1)ア 【学習課題を自己の課題としてとらえさせるための工夫】 身近な体験や疑似体験を通して課題意識を高めさせる。	
	○ 資料(前半)を読み、主人公の心情を考えさせる。	7				
展開	2 ゆう子さんとおばあさんのやりとりから二人はどのような気持ちになっただろう。	2	〈ゆう子さん〉 ・ うれしかった。 ・ 席をゆずってよかった。 ・ また、おばあちゃんに会いたいな。 〈おばあさん〉 ・ うれしい	〈研究の内容2-(2)ア〉 自己内対話を活性化させ、自分の気持ちの揺れに気付かせるために、心情円グラフを使い、考えていることを表出させる。 自己内対話を活性化させるために、ワークシートに自分の考えを理由まで具体的に書かせ、自分自身を客観的に見つめさせる。	〈研究の内容2-(2)ア〉 【自己内対話を活性化させる工夫】 自己決定を促し、その結果や根拠が他者と対立するような場面を設定する。	
	3 自分だったらどうしますか。 ○ ワークシートに自分の考えを記入させる。 ○ グループで話し合わせる。 ○ 全体で話し合わせる。	15	【男の人にゆずる】 ・ ケガをしていて大変そうだから。 ・ 今、困っているから。 【おばあさんにとっておく】 ・ 約束は守らないといけない。 ・ おばあちゃんの指定席だから。 【その他の行動】 ・ 寝たふりをする。 ・ 気付かれないように降りる。 ・ 隣の人を起こす。	研究の内容2-(2)イ ○ 自分の考えをワークシートに記入した後、グループで話し合い、さまざまな意見を出し合わせ、お互いの意見や考えを本音でぶつけ合い、よりよい価値観を見付けさせる。 ○ グループで話し合ったことを全体でも話題にし、できるだけ多様な意見や考えが出るようにして、討議を活性化させる。	研究の内容2-(2)イ 【自己内対話や討議を活性化させる工夫】 異なる意見や対立した意見を尊重することによって同質なものだけではなく到達し得ない深まりと広がり求めていく。 グループ討議→全体での討議というステップをとることによって、できるだけ多様な意見や考えが表出できるようにする。	
	○ 資料(後半)を読み、思いやりについて考えさせる。	3				
	4 ゆう子さんのどのような行動がおばあさんを笑顔にさせたのだろう。 ○ ワークシートに記入させる。 《ゆきぶり発問》 もし、ゆうさんが男の人ではなくおばあさんに席をゆずっていたらおばあさんはどう思っただろう。	5	・ ゆう子さんの優しい心。 ・ 誰に対しても誠実な気持ちをもっている行動。 ・ 人のことを考えた行動。 ・ その場に応じた行動。 ・ 悲しい。 ・ ゆう子さんの気持ちはうれしかったが、男の人にゆずってあげてほしかった。 ・ 笑顔にはならなかった。	○ 主人公の行動を予想させることで自分の行動を決定する際に相手のことを考えることが思いやりの心につながっていることに気付かせる。		
	5 思いやりの心をもって行動するためにはどのような気持が必要だろう。	5	・ 勇気が必要。 ・ 周囲の様子に敏感になること。 ・ 周囲に流されない強い意志。 ・ 誠実な心。	研究の内容2-(2)ア ○ 資料の中に描かれている内や登場人物の気持ちを深く捉えるような発問を工夫することで、主人公の心情にせまらせる。 ○ 主人公の行動の原動力となったものに気付かせる。 ○ おばあさんが主人公の優しさを喜んでいることに気付かせ、思いやりと感謝の双方向性に気付かせ、自覚化へとつなげる。	研究の内容2-(2)ア 【自己内対話を活性化させる工夫】 資料の内容とのかかわりについて生徒の認識を揺さぶるような発問を工夫する。	
自覚化	6 今日の授業を通してあなたが考える思いやりについてまとめてみましょう。	6	・ これまでは、人に対して親切にしようと思ってなかなか行動に移せなかったが、これからは声をかけてみようと思う。 ・ 今までは自分がしなくても誰かがしてくれると思っていただけ、これからは思いやりの心を大切にして友達と接していきたい。	研究の内容2-(3)ア ○ 主題についての自分の意見を考えさせることで、これまでの自分や今後の自分の姿を明確に捉えさせる。	研究の内容2-(3)ア 【自己の変容を実感させる工夫】 感想文による振り返りをさせ、実践への意欲につながるような工夫をする。	
終意欲未	○ 生徒の書いた生活記録の紹介を聞く。	4		○ さまざまな形の思いやりがあることを知らせることで、実践への意欲をもたせる。		